

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成22年1月14日(2010.1.14)

【公開番号】特開2009-77772(P2009-77772A)

【公開日】平成21年4月16日(2009.4.16)

【年通号数】公開・登録公報2009-015

【出願番号】特願2007-247486(P2007-247486)

【国際特許分類】

D 0 6 F 25/00 (2006.01)

D 0 6 F 58/02 (2006.01)

D 0 6 F 58/28 (2006.01)

【F I】

D 0 6 F 25/00 A

D 0 6 F 58/02 F

D 0 6 F 58/02 Q

D 0 6 F 58/28 A

【手続補正書】

【提出日】平成21年11月9日(2009.11.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0061

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0061】

ステップS106

温風脱水を実行する。温風脱水は、送風ユニット28を低速回転で運転し、ヒータ31に通電(強モード)して温風を洗濯兼脱水槽3内に吹き込み衣類の温度を上昇させる。同時に、洗濯兼脱水槽3を高速で回転させ温まった衣類から効果的に水分を脱水する(温度が上がると水の粘性が低下するため効率よく脱水でき、乾燥時間を短縮できる)。温風脱水時に、送風ユニット28を低速回転するのは、脱水時には洗濯兼脱水槽3を高速回転するのに必要なモータ4の電流が大きいため、脱水中に送風ユニット28を高速回転すると許容電流値(日本の商用电源では15A)を超えてしまうからである。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0065

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0065】

なお、衣類の量が多いほど衣類全体を温めるのに時間が掛かるため、温風脱水の時間は、衣類の量が多いほど長くする。本実施の形態例では、次のように設定している。布量が1kg未満の場合は約11分、1~2kgで約15分、2~4kgで約23分、4~5kgで約27分、5~7kgで約32分である。また、定格回転数は衣類の片寄り具合(アンバランス量)に応じて毎分800から1600回転の間で制御している。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0077

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0077】

ステップS113

乾燥開始からの経過時間が既定の時間になったかどうかを確認して処理を分岐する。規定の時間は、衣類の乾燥度（＝乾布の質量 / 湿布の質量）が0.9に達する時間より前に設定する。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0082

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0082】

乾燥コースが選択されている場合は、ステップS112の後、本ステップの乾燥運転2を実行する。乾燥コースは乾燥のみを行うコースであるが、使用者が乾かそうとしている衣類の乾燥状態（乾燥度）は様々である。例えば、乾燥度が低い（脱水直後）の衣類の場合、ステップS107からスタートしたほうが、衣類の温度を速く上げることができるので、乾燥時間を短くできる。しかし、乾燥度が高い衣類の場合、短時間で乾くので、ステップS107を実行すると、しわの発生する確率が高くなる。早い時期から送風ユニット28を高速回転しなければ、しわの発生する確率が高くなる。また、洗濯乾燥機で洗濯兼脱水槽3に投入された衣類の乾燥度を検知することは困難である。